

生活経済政策研究所 2021年度総会記念シンポジウム
2021年6月29日

「例外状況の社会民主主義」を超えて 「貧困・介護・育児の政治」をめぐって

宮本太郎(中央大学)

1 この本で論じたかったこと

左右問わずSNS等での「捨て台詞」的投稿でひたすら絶望状況として描き出される日本 30年間の福祉改革は何だったのか 「新自由主義の覇権」よりも「戦後福祉国家の虚妄」に賭ける

1) 日本型生活保障の機能不全と「新しい生活困難層」の増大

2) この機能不全に対処することを目指したこの30年間の福祉改革 なぜ掲げられた理念に近づけないのか？

3) ベーシックインカム、ベーシックサービスから「新世紀(脱成長)コミュニズム」まで、飛び交う「大構想」との関係で現状をとらえるとどうか ベーシックアセットという視点

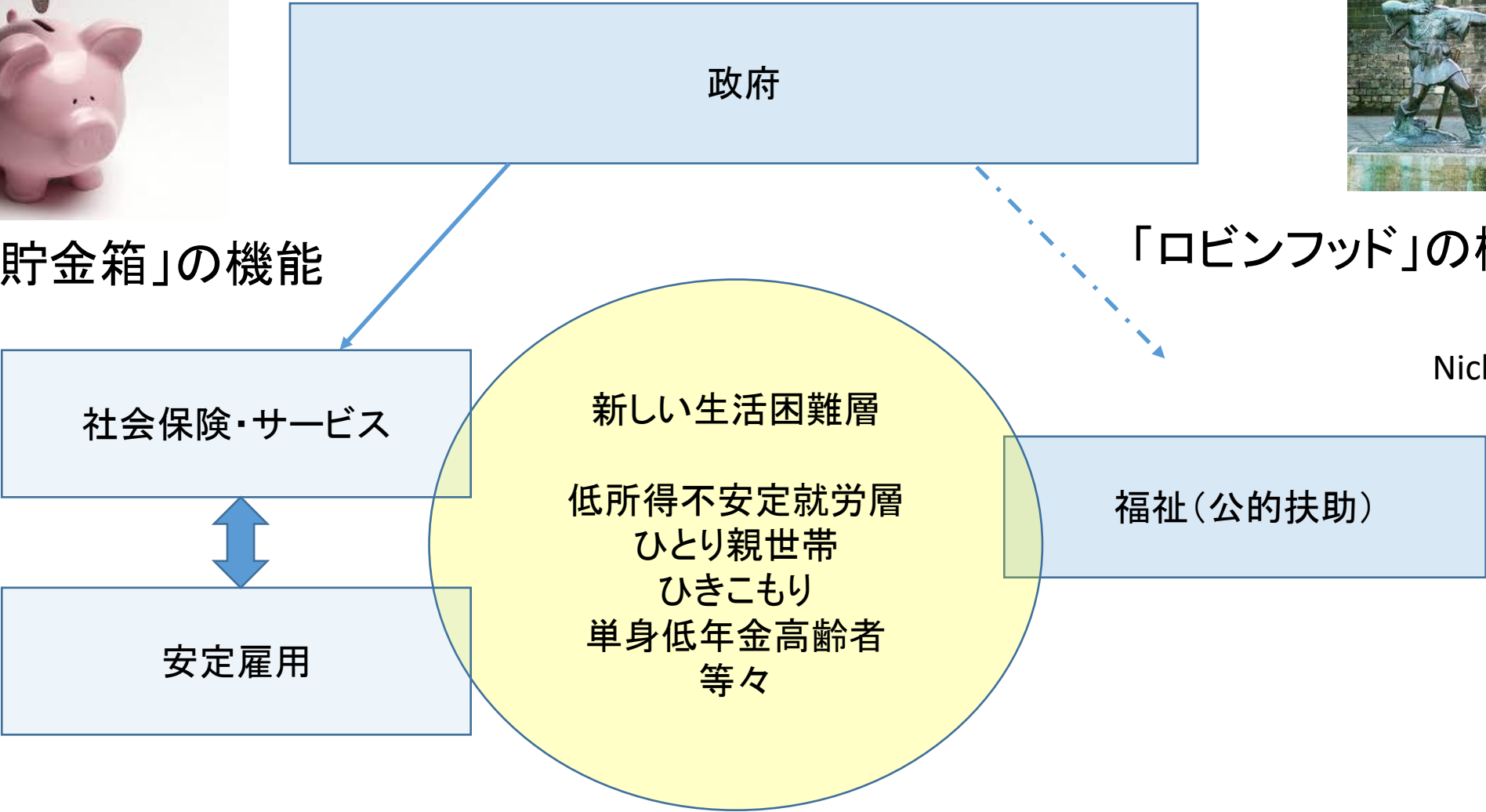
2 皆保険皆年金をいち早く達成した日本の生活保障だが、機能不全に



「豚の貯金箱」の機能

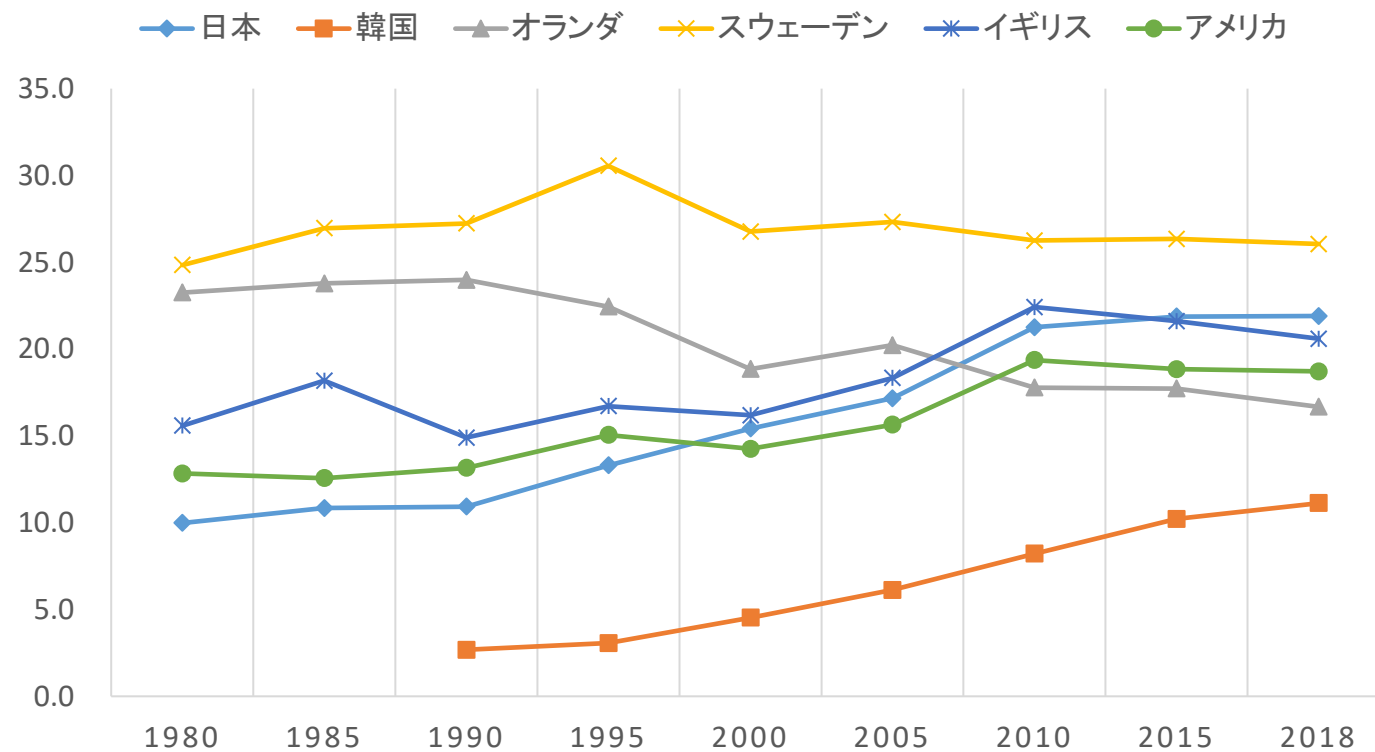


「ロビンフッド」の機能



Nicholas Barr

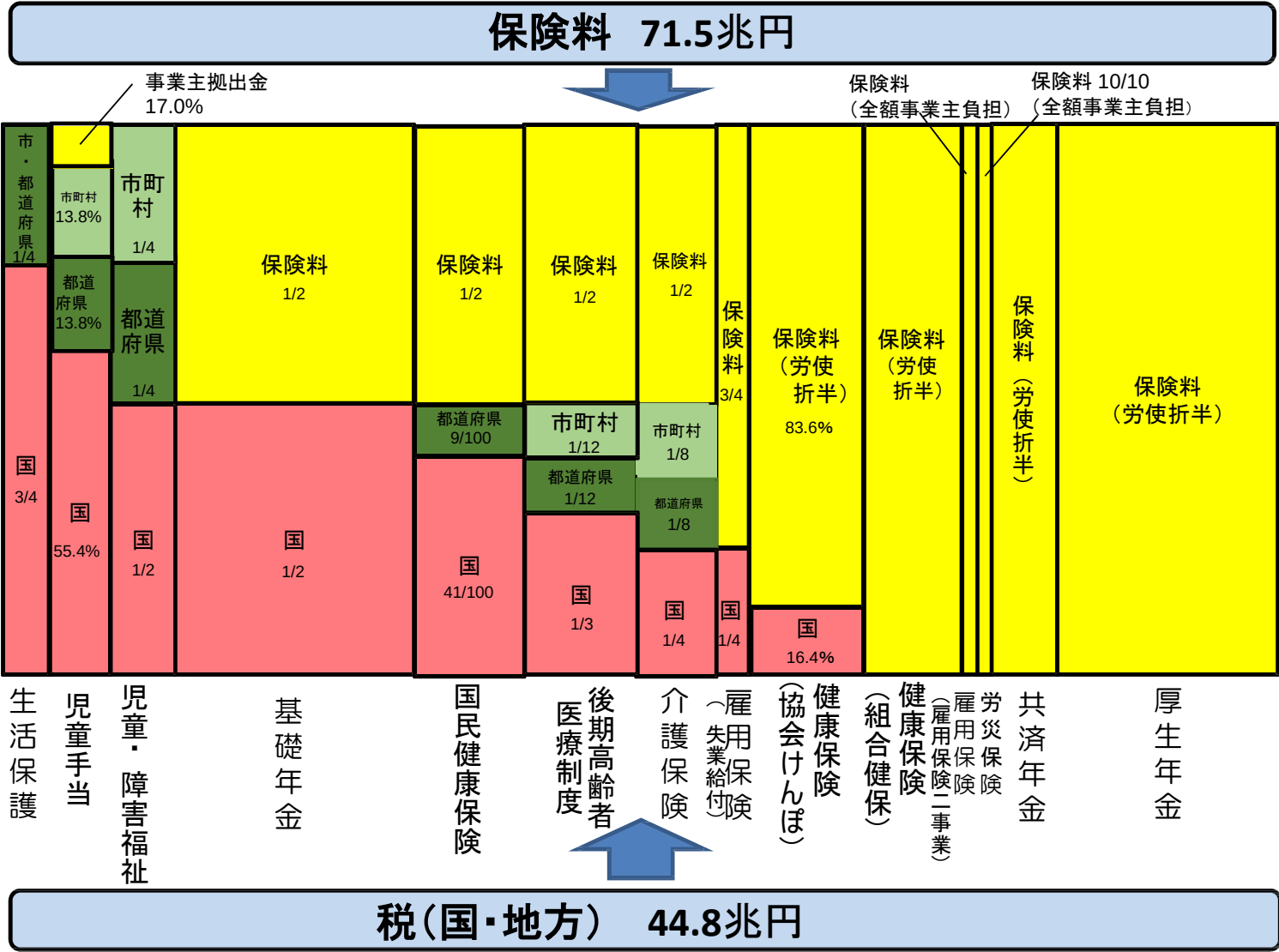
3 支出規模については福祉大国に迫る日本の社会保障だが・・・



対GDP比 出所 OECD Social Expenditure Database

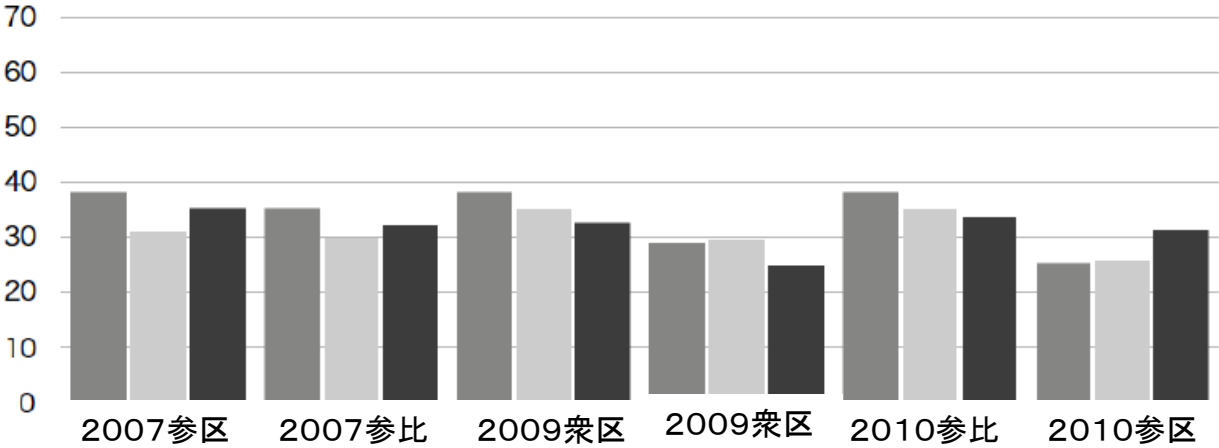
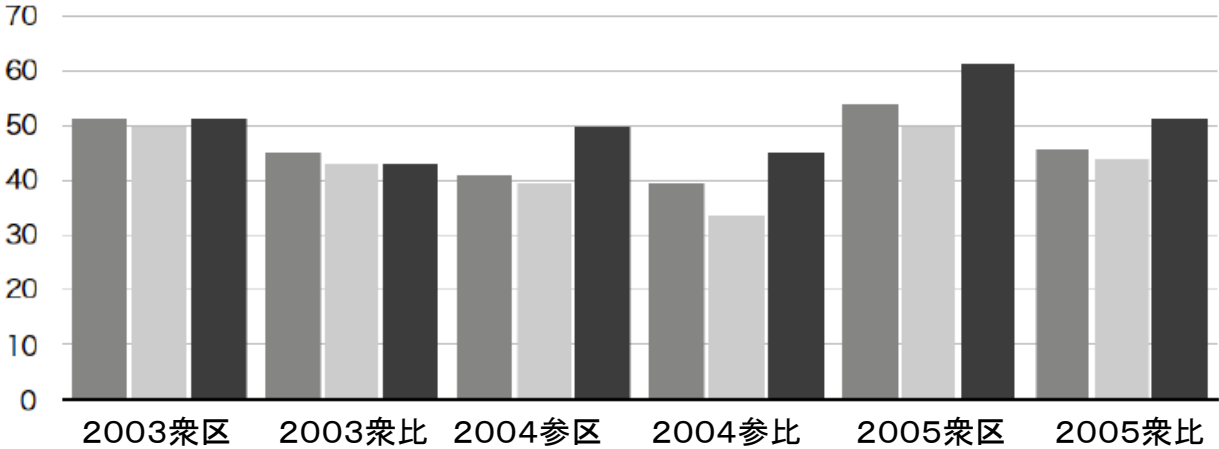
相対的貧困率 日本 15・4% (2018)
イギリス 10・9% (2015)
オランダ 7・9% (2015)

4 日本の社会保障財源 税が社会保険を支える形(2019当初予算) その意義と問題点



5 日本の低所得層は政治選択にあたり福祉に期待しない傾向

各選挙での自民党の
階層別得票



6 この30年間の福祉改革

旧来の生活保障に組み込まれていた措置型のサービスからの脱却
準市場型・利用者エンパワーメント型の給付が追求される 介護保険
制度、子ども子育て支援新制度、生活困窮者自立支援制度（ベー
シックアセットとの接点）

(1) 香取さんはどのような社会保障体制を思い描いたか 北欧モデル
の評価

こうした改革は、「例外状況の社会民主主義」のなかで争点化するが、
例外状況が収まるなかで「磁力としての新自由主義」に展開を阻まれ、
「日常的現実としての保守主義」を持続させる

7 濱口桂一郎さんのブログでのレビュー

「メインタイトルの「貧困・介護・育児の政治」は、これはもうここ30年間の福祉政治を見事な切れ味で分析していて、宮本さん自身がまさにその題材の政治過程の真っただ中にいて政策の方向付けに力を尽くしてきたことを、かくも客観的に、三つの福祉政治のイデオロギーの複雑怪奇な絡み合いによって描き出せるのか！という感嘆すべき作品になっています」

「三つの福祉政治のイデオロギーとは、例外状況の社会民主主義、磁力としての新自由主義、日常的現実としての保守主義ですが、**これが決していわゆる政治イデオロギーの右とか左とかと一致せず、実に奇妙な絡み合い方をするところが面白いのですね**」

（ただしベーシックアセットについては「もやもや」、というお言葉）

8 例外状況の社会民主主義

①政権政党の危機

非自民連立から「自社さ」へ（介護保険制度）

瀬戸際の自民政権から混乱の民主政権へ（子ども子育て支援新制度・生活困窮者自立支援制度）

②財政的危機のなかで社会保障改革浮上

③厚労省（厚生省）・財務省（大蔵省）の「戦略的互惠関係」

④市民運動との連携模索（介護の社会化を進める一万人市民委員会、にっぽん子ども子育て応援団、生活困窮者自立支援全国ネットワーク）

（2）こうした改革における「政官民」関係およびその変容

9 磁力としての新自由主義

「新自由主義者」だらけなのか？ そのような信条の持ち主ではなくても新自由主義的に振る舞わざるを得ない構造

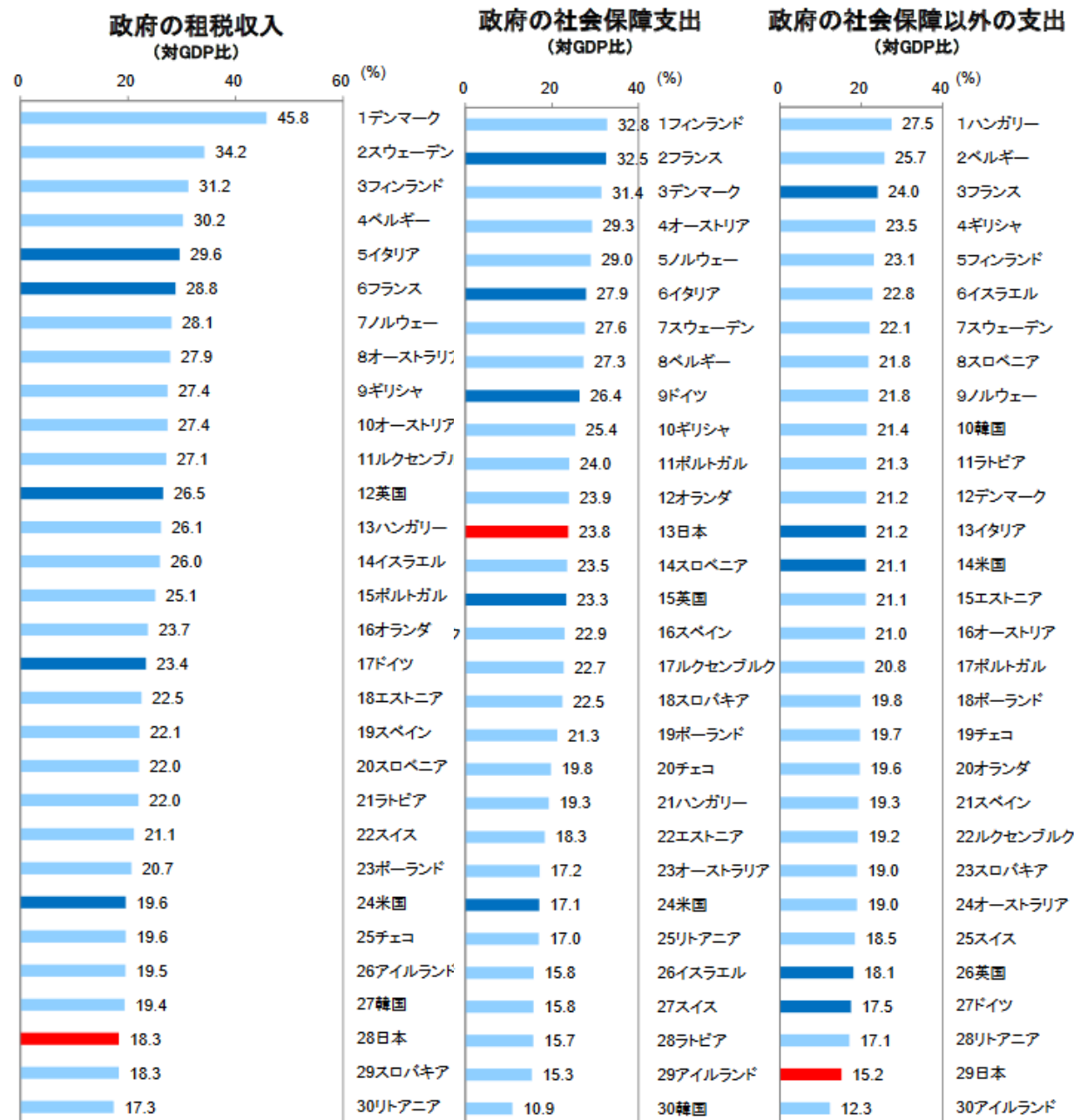
- ①超高齢化・重債務国家の低負担構造
- ②還ってこない税が痛税感と制度・税不信を強める悪循環
- ③公共サービスへの支出が効果をあげない自治体の制度

10 日常的現実としての保守主義

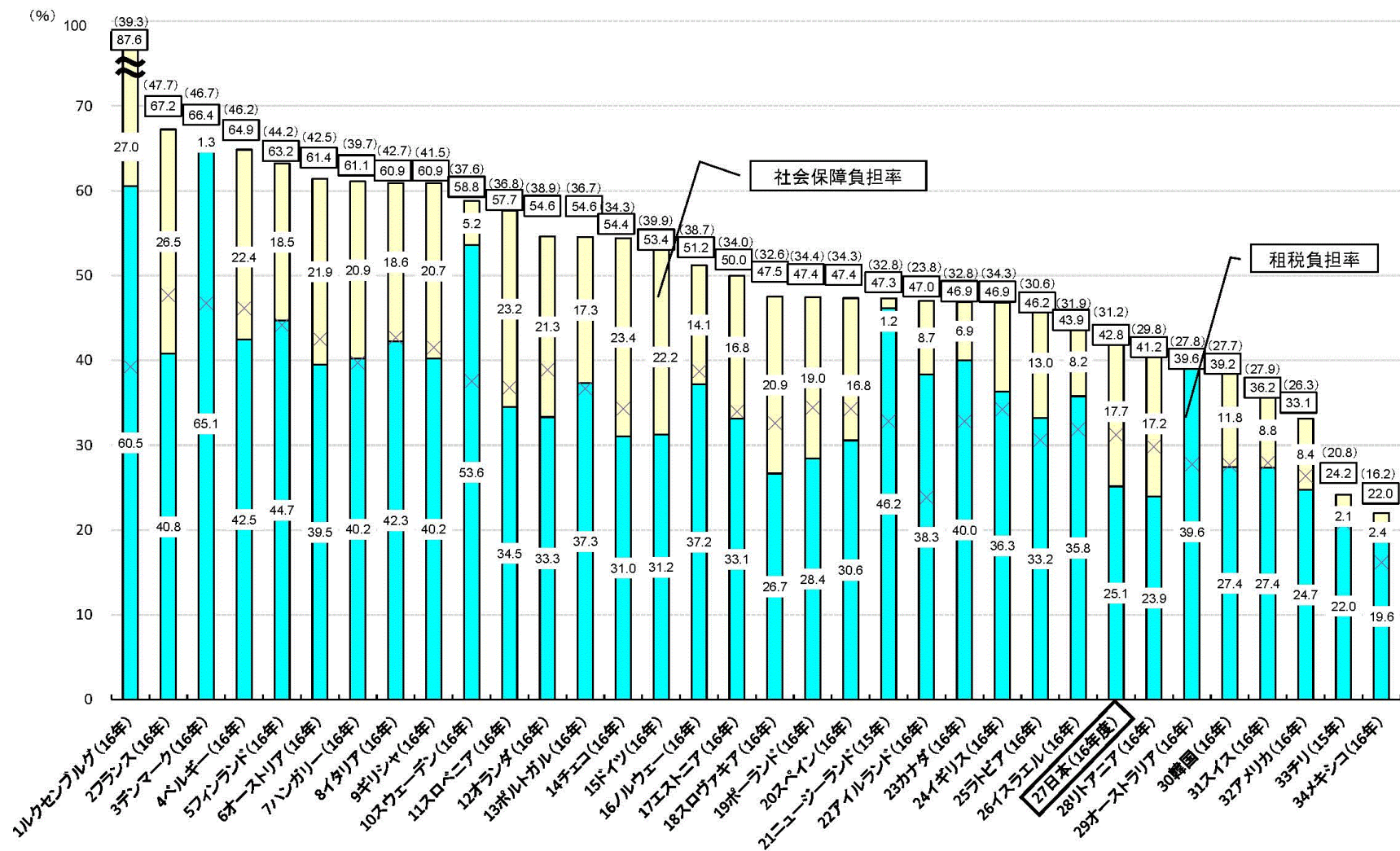
「困りごとについて頼れる」のは家族・親族 「子どもの世話・看病」(75・3%)、「介護や看病(子ども以外)」(67・5%)、「お金の援助」(77・2%) 「生活と支え合いに関する調査」(2019)

- ①規範というより家族・親族以外は頼れないという日常的現実
- ②伝統的家族というより弱者の相互依存という様相(8050問題、ヤングケアラー、認認介護等)
- ③磁力としての新自由主義を補強する機能

11 日本の政府の「大きさ」



12 社会保障と税の負担率



13 小さい政府 低い負担率にもかかわらず痛税感の高さ

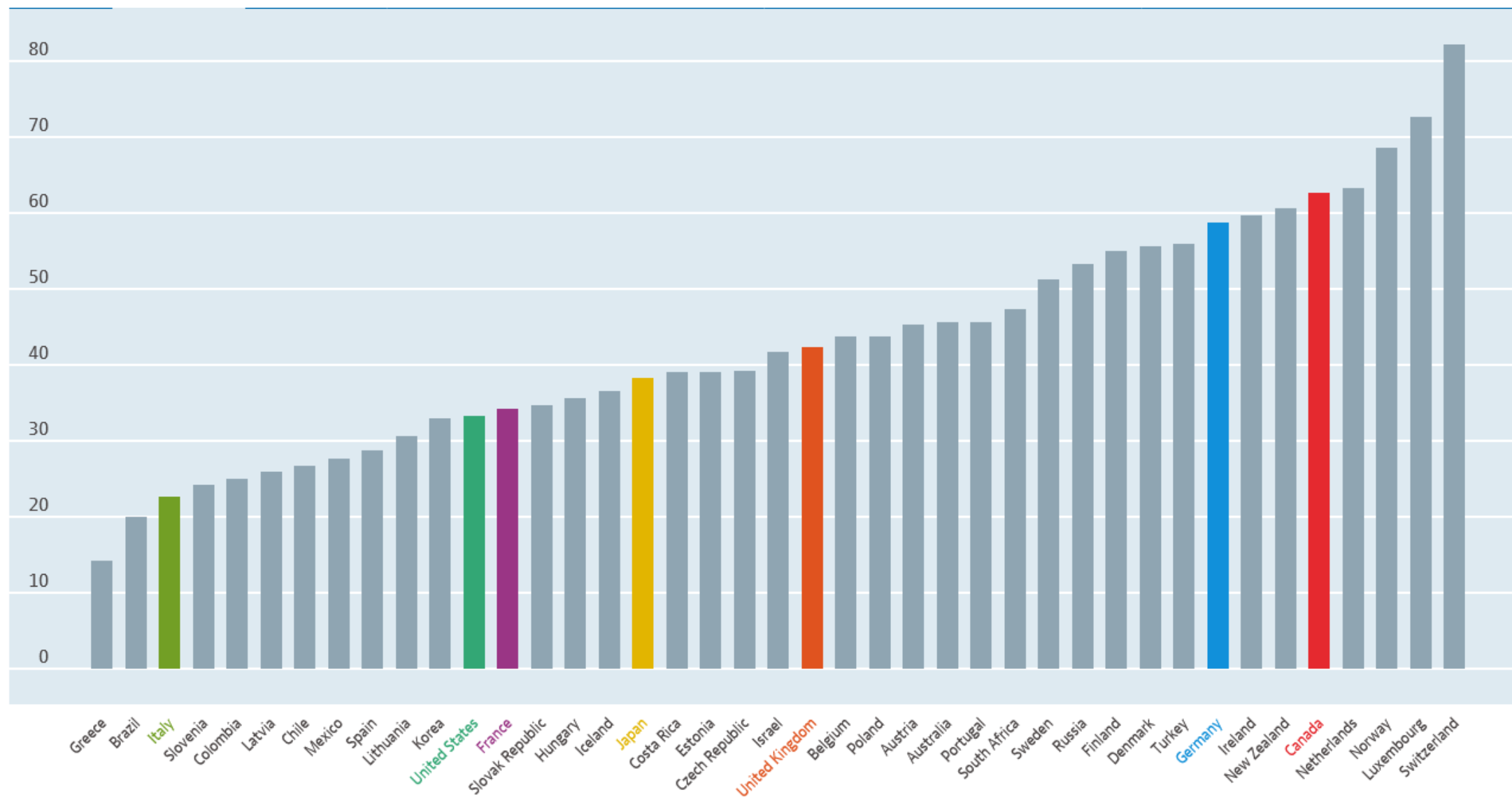
表 1-1 痛税感の国際比較

(%)	高所得者			中所得者			低所得者		
	高い	適切	低い	高い	適切	低い	高い	適切	低い
フランス	26.71	26.77	46.51	76.63	22.46	0.91	64.65	29.78	5.57
カナダ	33.29	26.82	39.88	73.90	23.95	2.15	70.59	26.07	3.34
スペイン	20.08	33.13	46.80	65.49	32.92	1.59	80.96	17.28	1.76
オーストラリア	42.18	29.36	28.46	63.28	34.51	2.22	73.58	25.61	0.81
日本	18.44	20.22	61.34	61.68	33.18	5.14	76.01	16.60	7.39
アイルランド	23.50	25.18	51.32	57.53	40.50	1.97	69.97	28.07	1.96
アメリカ	16.24	27.05	56.71	57.13	38.99	3.87	62.08	32.31	5.61
スウェーデン	27.85	32.61	39.53	55.68	41.92	2.40	81.66	17.45	0.89
ノルウェー	24.01	31.70	44.29	50.19	48.25	1.55	77.65	21.41	0.95
オランダ	17.10	31.81	51.09	49.95	48.66	1.39	69.26	29.56	1.19
スイス	6.88	29.48	63.65	47.79	51.08	1.13	69.62	29.56	0.82
フィンランド	16.59	38.29	45.12	47.18	50.85	1.97	75.64	23.74	0.62
ドイツ	12.06	25.09	62.85	46.41	49.09	4.50	76.00	22.94	1.06
イギリス	27.63	40.61	31.76	45.76	49.88	4.35	68.87	28.80	2.32
デンマーク	33.88	38.31	27.82	43.77	53.72	2.51	68.77	30.08	1.15

(出所) 佐藤・古市 (2014) p.6.

出所 国際社会調査プログラム (I S S P)

14 政府に対する信頼 OECDでもかなり低い方



出所 OECD Data

15 社会民主主義ビジョンとしてのベーシックアセット

本書で主に論じた私たちの「到達点」を前向きに確認するための枠組み

- ①ベーシックインカムやベーシックサービス(分かりやすいようで実は曖昧！)をふまえつつ、結局は現金給付とサービスの組み合わせであることを打ち出し、何を給付するかよりどう給付するかをポイントに考える(準市場や利用者エンパワーメントを活かす)
- ②コモンズの保障という視点(時ならぬ「コミュニズム」ブームとの重なり)
- ③憲法25条×13条「健康で文化的な最低限度の生活」を幸福像に応じてカスタマイズできること

地域共生社会と重層的支援体制整備事業などをいかに活かすか

(3) 社会保障・税一体改革2.0は可能か、いかなる分野で？

16 ベーシックインカム・ベーシックサービス・ベーシックアセット

	ベーシックインカム	ベーシックサービス	ベーシックアセット
原理	すべての市民に同額の現金給付を	すべての市民に同質の公共サービスを	すべての市民に基本的なアセットを
正当性	現金給付の一律性	公共サービスの同質性	アセットの最適性
重要視される資源	私的資源	公的(行政的)資源	公・私・コモンズの資源
分配のあり方	再分配	再分配	再分配と当初分配
主唱者	BIEN創設者としてフィリップ・ヴァン・パリース、ガイ・スタンディング等提唱者多数	アンナ・コートらロンドン大学グローバル・プロスペリティ研究所	マリナ・ゴービスらカリフォルニア・パロアルトの未来研究所、デモス・ヘルシンキ

出所 DEMOS HELSINKI, 2019の表を参照しつつ著者作成

資料1 ベーシックサービスとは

1) ロンドン大学: グローバル・プロスペリティ研究所の2つのレポート(2017年と2019年)が提起、さらにCoote and Percy, 2020など 「BIはガマの油snake oil)という批判が出発点 (Coote, 2018)

2) 2つのレポートでのベーシックサービス(⑤と⑥は2017レポートのみ)

①良質で無償の保育サービス ②高齢者・障害者介護サービス ③公共交通と無償パス ④全市民にブロードバンド環境提供する情報サービス(+ ⑤150万戸の無償の公営住宅サービス ⑥220万世帯への食糧供給サービス)

資料2 BI派からの反論 ガイ・スタンディングのベーシックサービス批判

1)「パターナリズムと闘うベーシックインカムに対して、国家パターナリズムの拡大図るベーシックサービス」

この批判が妥当するかはサービス供給制度構想しだい

全国に650の住民協議会を設けて民意反映させるというのが

バウチャーの導入など準市場的な制度の構築を示唆するが、具体的ではない

2)「ベーシックサービスは普遍主義的とはいえない」

たしかに中間層が、無償の公営住宅、食料サービスを歓迎するとは思われない 逆に中間層のニーズに対応すると低所得層が排除される(日本の介護保険制度)

Guy Standing, 2019, Why “Universal Basic Service” is No Alternative to Basic Income, Open Democracy(<https://www.opendemocracy.net/en/oureconomy/why-universal-basic-services-is-no-alternative-to-basic-income/>)

資料3 ベーシックアセットとは

- 1) カリフォルニア州パロアルトのシンクタンク未来研究所(IFTF)やフィンランドのシンクタンクであるデモス・ヘルシンキなどが提起 私的アセットの給付であるベーシックインカム、行政的アセットの給付であるベーシックサービスに加えて、「コモンズのアセット」(デモスヘルシンキ)、「オープンなアセット」(未来研究所)の配分を目指す
- 2) 未来研究所のレポートは私的なアセット、行政のアセット、オープンなアセットにまたがって、資本、インフラ、空間、自然環境、データ、コミュニティ、ノウハウ、権力の8つのアセットを提示
- 3) 「ユニバーサル・ベーシックアセットは、単一の政策手段というより、未来の経済政策パラダイムに向けた一個のメタファーであり、問題発見の方向性として理解されるべき」とも述べている」
(Demos Helsinki, 2019: 37)

資料4 ベーシックアセットの構想 1 複合性

1) ベーシックインカム論はいかなるサービス供給体制と連携させるか論じない ベーシックサービス論も(イギリスのBSのコストを421・6億ポンド、現金給付は445億ポンドと試算しつつ)現金給付との連携に触れない

BIもBSも、クリアでエッジが立っているようでいて、実はあいまい これに対して、私的アセット(現金給付)、行政的アセット(公共サービス)、コモンズのアセットの複合的給付を唱えるベーシックアセット論は問題設定としてはもっともリアル

2)コモンズというアセット コモンズ: 誰のものでもなく、オープンである分、誰かの占有のリスクもあるアセット コミュニティ、デジタルネットワーク、自然環境 一見漠然としているがこれもきわめてリアルなアセット

①コミュニティ ジョン・ロールズが最も重要な基本財とした「自尊の社会的基盤」

②デジタルネットワーク ガイ・スタンディングのいう「情報コモンズ」

③自然環境 社会保障財源としての環境税構想とも関わる

資料5 ベーシックアセットの構想 2 普遍性

1) ベーシックインカムもベーシックサービスも、同一額給付、同一サービスという「制度としての普遍主義」これに対して、ベーシックアセットは、個別の選別的な給付も含む、「体制としての普遍主義」

均一給付による制度としての普遍主義は、当該制度と適用除外による外部制度の選別主義へ反転しがちというのが福祉政治史の教訓

2) アセットは事後的補償ではなく事前の予防であるが、時間軸で事前にパッケージとして配布されるのではなく、多様で複合的な困難に対して最適なパッケージが提供される仕組みが予めできているという意味

資料6 ベーシックアセットの構想 3 最適性

1) 均一の給付が打ち出される一方で、最適な給付はなぜ断念されるのか？ ロールズの基本財へのセンの批判を含めて

最適なサービスのパッケージや納得度の高いターゲット化は不可能なのか 実はこれまで当事者と最適な給付をつなぐ仕組みは正面から取り組まれてこなかった

2) 準市場の仕組みはもともとルグランは当事者と最適なサービスをつなぐ仕組みとして提起した

3) 近年議論がすすむ地域共生社会ビジョンは、2020年社会福祉法改正で包括的相談支援を軸にした重層的支援体制整備事業が法制化されたこともあり、当事者と最適な給付をつなげ、コミュニティというコモンズを開放していく可能性も 地域密着型の社会的投資(社会的投資2.0)へ

reference

Social Prosperity Network, 2017, Social Prosperity for the Future: A Proposal for Universal Basic Service

Institute for Global Prosperity, 2019, Universal Basic Services: Theory and Practice A Literature Review, UCL: IGP.

Coote, Anna, 2018, “Basic Income? It’s Snake Oil”, The Political Quarterly, Vol. 89, Issue 4.

Coote, Anna and Andrew Percy, 2020, The Case for Universal Basic Services, Polity.

Demos Helsinki, 2019, Universalism in the Next Era: Moving Beyond Redistribution, Next Era Papers: Demos Helsinki.

Ortiz , Isabel, Christina Behrendt, Andrés Acuña-Ulate and Quynh Anh Nguyen, 2018, Universal Basic Income Proposals in Light of ILO Standards: Key Issues and Global Costing, ESS : Working Paper No. 62, ILO.

Rothstein, Bo and Eric M. Uslaner, 2005, “All for All: Equality and Social Trust”, LSE Health and Social Care Discussion Paper No. 15, The London School of Economics and Political Science.

Sefton, Tom, 2002, Recent Changes in the Distribution of the Social Wage, Case Paper, No. 62, Center for the Analysis of Social Exclusion, London School of Economics.

Standing, Guy, 2019, Plunder of the Commons: A Manifest for Sharing Public Wealth, Pelican Books.